

## PROGRAMME

スケルツォ 第3番 op.39 嬰ハ短調  
Scherzo no.3 op.39 en ut dièse mineur

前奏曲 op.45 嬰ハ短調  
Prélude op.45 en ut dièse mineur

バラード 第4番 op.52 ヘ短調  
Ballade no. 4 op.52 en fa mineur

ポロネーズ op.53 <英雄> 変イ長調  
Polonaise op.53 <héroïque> en la bémol majeur

子守歌 op.57 変ニ長調  
Berceuse op.57 en ré bémol majeur

ソナタ 第3番 op.58 ロ短調  
Sonate op.58 en si mineur  
・Allegro maestoso  
・Scherzo (molto vivace)  
・Largo  
・Finale (presto non tanto)

幻想ポロネーズ op.61 変イ長調  
Polonaise Fantaisie op.61 en la bémol majeur

ワルツ op.64 no.2 嬰ハ短調  
Valses op.64 no.2 en ut dièse mineur

ワルツ op.64 no.1 変ニ長調  
Valses op.64 no.1 en ré bémol majeur



C. BECHSTEIN

1839-1846,  
Chopin's years in Nohant

レクチャーコンサート

# ショパン、ノアンの年月 (1839-1846)

2016年9月16日(金)

開場18:45 開演19:00

会場 汐留ベヒシュタイン・サロン

2016年9月17日(土)

開場10:45 開演11:00

会場 武蔵ホール

## ショパンとノアンと作品と

Yves HENRY イヴ・アンリ

フレデリック・ショパンは生まれた場所も国籍もフランスではありません。生涯をポーランドとフランス、二つの国で全うした作曲家です。1810年3月1日ポーランド人の母とフランス人の父のもとにポーランドで生まれ、1849年10月7日パリで死亡。パリのペール・ラシェーズ墓地に葬られました。その心臓はポーランドへ持ち帰られ、ワルシャワの聖十字架教会の柱の中に眠っています。生涯のはじめの20年をポーランドで、残りの19年をフランスで暮らし、全作品の3分の2をフランスで作曲しました。(その大部分がノアンで書かれた)。つまりスラヴ魂を表現している音楽だと世界的に高く評価されている作品が、実は同時に非常にフランス的な洗練と巧緻さで書かれていて、その音楽語法は三人の偉大な作曲家、フォーレ、ドビュッシーそしてラヴェルに受け継がれてフランス音楽の系譜を形づくっているのです。

さてフランスにおけるショパンの人生をもっとも特徴づけるべきことは、1838年から1846年まで9年近く続いたジョルジュ・サンドとの関係でしょう。彼らは自分たちのスキャンダルでもちぎりになったパリのサロン社交界から遠ざかるために、スペインのマヨルカ島で冬を過ごすことを決め、1838年秋パリを出発しました。このマヨルカ滞在は、作曲家の人生を「マヨルカ前」と「マヨルカ後」に分かつ象徴的な分岐点となります。ショパンが結核だという噂を信じた島民によって追放され住むことになったヴァルデモサの廃墟のような修道院での滞在は、ショパンの健康を著しく害し後々まで悪い影響を残しました。「24の前奏曲 op.28」は、この過酷な生活条件の中で完成された作品です。

マルセイユで短い休息の日々を過ごしたショパンは徐々に元気になり、二人は直接パリに戻らず、フランスの真ん中ペリー地方のノアン村にあるジョルジュ・サンド邸へ向かいました。1839年6月1日ノアンに到着。ショパンは自分がいままた誕生したような気持ちになり幸せでした。初めて見たこのフランスの田舎が、生まれ故郷ポーランドのジェラソヴァ・ヴォーラにそっくりだったからです。彼は少しずつ作曲家の仕事に精を出していき、サンドは幼い頃から祖母に育まれ愛してやまないこの館が、ショパンにも気に入られるのを見て大喜びします。

10月まで続いたこの第1回目のノアン滞在中にショパンは、「葬送ソナタ op.35」「スケルツォ第3番」他、数々の重要な作品を完成します。以来作曲する時間が殆どないパリから逃れて、毎夏サンドとともにノアンに舞い戻り長い滞在をしています。1841年から1846年の夏の数ヶ月間、執筆に専念できる静寂な作家の家は、ピアノの音が響く作曲家の家と化しました。プレイエルはショパンが作曲するために毎夏グランドピアノを届けました。宛先の住所欄に「ペリー、ショパン宅」と記された帳簿が残っています。

このコンサートは、1839年から1846年までショパンがノアンで暮らした7回の夏を、「英雄ポロネーズ」「子守歌」「ソナタ第3番」等、円熟期の作曲家を表象する代表作を通して紹介する試みです。短いナレーションのあとに演奏が続きます。ノアンでの作曲家の生活や、画家のウジェーヌ・ドラクロワやオペラ歌手のポーリーヌ・ヴィアルドたち、ジョルジュ・サンド邸の著名な招待客の姿を思い描きながらお聞きください。

(翻訳 大倉景子)

●入場料 一般:3,500円 ベヒシュタイン・サロン会員:3,000円 レッスン受講生:2,000円  
(全ての価格は税込表示です)

●お問合せ ユーロピアノ株式会社 東京本社ショールーム 担当 泰田  
TEL 03-3305-1211  
Email yasuda@euro-piano.co.jp

●お申込みは裏面のお申込みフォームをご覧ください。

Yves Henry  
イヴ・アンリ

パリ国立高等音楽院教授

主催 ユーロピアノ株式会社/Bechstein Japan  
後援 C.Bechstein Pianofortefabrik AG(ドイツ・ベヒシュタイン本社) 公益財団法人 日本ピアノ教育連盟

一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(ビティナ)